

江戸時代に描かれた宇津家屋敷図



江戸時代、救命丸^{けんじょう}を献上していた一橋家^{ひとつばしけ}(徳川御三卿の一つ)が、宇津家とはどういう所なのかと画家に描かせたものです。屋敷前の堀、入り口の松、中央の長屋門などは現在でも残っています。原画 茨城県立歴史館保存

栃木県
高根沢発祥

宇津救命丸ものがたり

高根沢と宇津救命丸

宇津救命丸は、いまから400年以上も昔の1597年(慶長二年)ごろに栃木県の高根沢(当時は西根郷)で創られました。創製者は、宇都宮城で御殿医をしていた宇津家の初代、宇津権右衛門です。



救命丸のはじまり

高根沢で庄屋となった初代宇津権右衛門は、村人の健康のために救命丸を処方し、無料で分け与えていました。しかし、その優れた効能が評判となり、次第に関東一円から全国で販売されるようになりました。



救命丸は秘薬！

当時、救命丸の中味や作り方は代々宇津家の長男だけに言葉のみで伝えられました。長男が救命丸を作るときは身体を清め、長男以外近づけない誠意軒の中で調合を行いました。

将軍様も飲んでいた？

江戸時代、救命丸は高根沢領主となった一橋家に献上されていました。一橋家は、将来、将軍の跡継ぎを出す可能性がある

家柄なので、子供たちが丈夫に育つように救命丸を飲ませました。一橋家出身の11代将軍徳川家斉も、子供のころ救命丸を飲んでいたのでかもしれません。



誕生から400年以上 宇津救命丸

1597年(慶長2年)
栃木県高根沢で創業



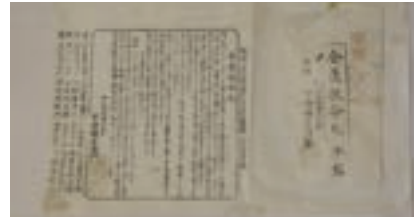
創業1597年
宇津救命丸株式会社

宇津史料館

宇津救命丸の長い歴史に関するいろいろな資料を集め、皆様にご覧いただいております。



明治・大正時代の看板



明治初期頃の救命丸パッケージ



昭和初期頃の救命丸パッケージ



製薬の際の心構えを説いた宇津家代々の書「掟」



神農像

宇津薬師堂



工場の東南の一角にあり、江戸時代に人々が病苦から救われることを願って建立され、栃木県高根沢町の指定文化財となっています。

総ケヤキづくりの建物で日光東照宮を建てた大工が手がけたともいわれています。



やくしどう 薬師堂の中にはやくし
るりごにょららい たてまつ
瑠璃如来が奉られています。その両脇には十二
しんしょう 神将がいて、それぞれ7
ひき 千人の部下を率いて
人々の健康を見守っています。



堂内の格天井には牧野牧陸が描いた龍の水
ぼくが 墨画を中心に、56枚の彩色された薬草の絵が
描かれています。

宇津誠意軒

江戸時代に薬の調合をしていた離れ。宇津家の屋敷の一角、木立の中にある今なお当時の名残りが感じられます。



宇津救命丸とは



宇津救命丸(銀粒)



宇津救命丸金粒 宇津救命丸ゴールド



宇津救命丸糖衣

お子様の夜泣き・かんむし(ギャン泣き・ぐずり)・下痢・食欲不振などに効く、赤ちゃんから中学生まで使えるお薬です。

その特徴は

- 生薬だけを使ったおだやかな作用。(鎮静剤や睡眠薬ではありません)
- 合成薬・保存剤は未使用。
- 自律神経のバランスを整え、神経の高ぶりを抑える。
- 少ない服用量で広い効果。
- 漢方とは違う日本独特の処方。

現在は小・中学生のストレスも増えています。ストレス症状(イライラ・不機嫌・食欲不振など)はかんむしの症状と同じです。ストレスが多いお子様には是非お試しください。



創業1597年

宇津救命丸株式会社

本社・工場
〒329-1224 栃木県塩谷郡高根沢町上高根沢3 9 8 7
TEL.028-675-0001(代) FAX.028-675-4329